

参考資料5

体験交流プログラム勉強会・ 体験ツアーの「魅力」造成研修会資料

体験交流プログラム勉強会
(平成 27 年 10 月 13 日 13:30~17:30)
体験ツアーの「魅力」造成研修会
(平成 27 年 3 月 7 日 12:30~17:00)

体験交流プログラム勉強会
資料

いいな3村広域連携勉強会の開催

(1) 開催概要

【体験交流プログラム】

- 日 時：10月13日（火）13:30～17:00
- 場 所：伊平屋村 前泊港ターミナル 2F 多目的ホール
- 実施事項：体験交流プログラムの品質向上にかかる勉強会
- 参加対象：3村における体験交流プログラムの提供関係者 [行政(農政、観光)、観光協会]
体験交流プログラムの実践に係わる関係者
- 実施目的：体験交流プログラムのモニターツアーの実施に向けたプログラムの磨き上げや
リスク対策に関して、講師によるアドバイスに基づいた議論を実施し、品質向上を図る。
- 講 師：株式会社近畿日本ツーリスト インバウンド事業部次長 福波淳氏

【コミュニティ・ビジネス】

- 日 時：10月14日（水）9:00～12:00
- 場 所：伊平屋村 前泊港ターミナル 2F 多目的ホール
- 実施事項：コミュニティ・ビジネスの商品開発にかかる勉強会
- 参加対象：3村におけるコミュニティ・ビジネスの商品開発・提供関係者
[行政(農政、観光)、観光協会]
- 実施目的：過年度検討した地域ブランドコンセプトを振り返りながら、コミュニティ・ビ
ジネスの商品の付加価値化や開発手順に関して、講師によるアドバイスに基づ
き議論を深める。
- 講 師：グリシャス株式会社 地域活性化プロデューサー 石渡進一氏

食品流通業界に20年従事し、地域活性化・商品開発アドバイザーとして、消費者目線でのニーズを踏まえた「食」商品開発に、全国各地で取り組んだ実績を有する。地域素材を活用したレシピの開発から生産体制の構築まで幅広く対応が可能。

(2) 当日の流れ

	行程
[1日目] 10/13 (火)	(12:20 運天港発フェリー到着) 13:30～17:00 体験交流プログラム勉強会 18:00～ 懇親会(会場予定:海魚)
[2日目] 10/14 (水)	9:00～12:00 コミュニティ・ビジネス勉強会 12:00～ 昼食 (13:00 運天港行きフェリー出発)

(3) 勉強会プログラム

1) 体験交流プログラム勉強会 / 10月13日(火)開催

1. いいな3村広域連携の取組みの紹介	13:30~(5分程度)
2. 体験交流プログラムの検討	13:35~(移動・休憩を含む3時間15分)
○現場見学会 / イノー体験プログラム (2時間程度)	
○フィードバック及び商品化に向けたレクチャー (1時間程度)	
総括・閉会	16:50~(10分程度)

2) コミュニティ・ビジネス勉強会 / 10月14日(水)開催

1. いいな3村広域連携の取組みの紹介	9:00~(5分程度)
2. 商品開発に関する講師レクチャー、取組の共有	9:05~(30分)
○商品開発に必要なこと [石渡さんより]	
○これまでの取組内容の振り返り [事務局より]	
3. 商品開発に向けた検討	9:35~(2時間15分)
○商品コンセプトについて	
○具体的な商品内容の検討	
○今後の進め方	
総括・閉会	11:50~(10分程度)

平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業

いいな3村広域勉強会出席者名簿
(交流体験プログラム、コミュニティ・ビジネス)

(敬称略)

番号	村	班名	役職	氏名	10月13日	10月14日	懇親会	備考
					交流体験 プログラム	コミュニティ ビジネス		
1	伊是名村	伊是名村 商工観光課	課長補佐	東江隆二	○	—	○	臨時議会 対応の為
2		いぜな島 観光協会	事務局長	上間美卓	○	○	○	
3	伊平屋村	伊平屋村 農林水産課	主事補	前里薫	○	—	○	
4		伊平屋村 総合推進室	主事	上原拓海	○	○	○	
5		伊平屋村 歴史民俗資料館		西藤優三	○	—	—	
6		伊平屋島 観光協会	主任	西銘琢也	○	○	○	
7	今帰仁村	今帰仁村 観光協会	事務局長	又吉演	○	○	○	
8	沖縄県	村づくり計画 課	主任技師	崎間賀子	○	○	○	
9		村づくり計画 課		金城雅友	○	○	○	
10	事務局	OC		小川哲平	○	○	○	
11		OC		大城美由紀	○	○	○	
12		A R J		大島重久	○	○	○	
13	講師	KNT	インバウンド 事業部次長	福波淳	○	—	○	
14		グリシャス	地域活性 プロデューサー	石渡進一	○	○	○	
参加人数					14	10	13	

民泊体験プログラム

日次	月日(曜)	時間	行 程	食事	宿泊
1	10/13 (火)	12:20	前泊港着		
		12:40	入島式 ※入島式終了後、各民家さんの車に荷物積み込み		
		13:00	昼食		
		13:40	体験場所に移動		
		14:00	【イノー体験プログラム：(食べれる貝探し)】		
		14:20	危険生物の説明		
		14:30 ~ 16:00	イノー体験開始		
		16:10	民家さんへ移動・家業体験		
		21:30	就寝	夕食	
10/14 (水)		06:30	起ししょう・朝食・その他準備(洗面・部屋の片付け)	朝食	
		07:30	朝食		
		08:30	家業体験【歴史民俗資料館にて島の歴史を知る体験：島めぐり】		
		11:00	昼食	昼食	
		12:00	離島式		
		13:00	前泊港出港		
				伊平屋島 民泊	

2015年10月13日(火) 我喜屋の潮汐表

潮汐表

海釣り・ヨット・潮干狩り等の海洋レジャーや仕事・研究などにおいて、
潮汐の情報やデータを知りたい時、欲しい時に、是非ご活用ください。

千島列島 | 北海道地方 | 東北地方 | 関東地方 | 中部地方 | 近畿地方 | 中国地方 | 四国地方 | 九州地方 | 琉球諸島

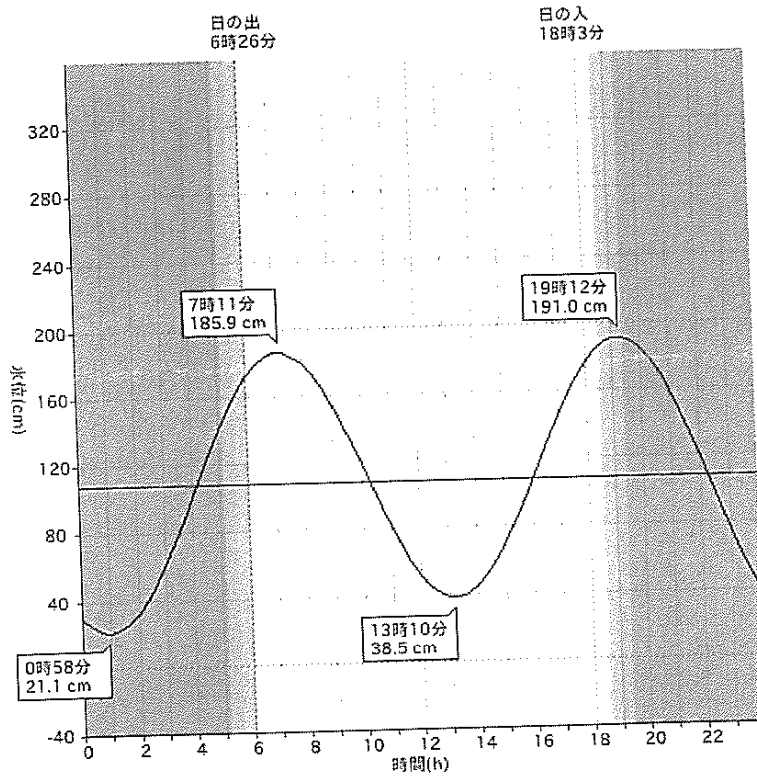
tide736.net > 琉球諸島 > 沖縄県 > 我喜屋

2015年10月13日(火) 我喜屋

潮汐カレンダーを表示

<< 前月 < 前日

次日 > 次月 >>



日付	2015年10月13日(火)	計算期間	M38.9-105D
港名	我喜屋	Sa,Ssa分潮	
緯度	27.02	計算方法	ダーウィン法(1か月)
経度	127.58	観測期間	-
観測期間	短期	計算機関	海上保安庁水路部

潮時	0:58	7:11	13:10	19:12	-	-
潮位	21.1cm	185.9cm	38.5cm	191.0cm		

2015年 10月

日	月	火	水	木	金	土
				中	中	中
				小	小	小
長	若	中	中	大	大	大
大	中	中	中	中	小	小
小	長	若	中	中	大	大
大	大	中	中			

潮カレンダー

10月10日(土)	● 中潮
10月11日(日)	● 大潮
10月12日(月)	● 大潮
10月13日(火)	● 大潮
10月14日(水)	● 大潮
10月15日(木)	● 中潮
10月16日(金)	● 中潮
10月17日(土)	● 中潮
10月18日(日)	● 中潮
10月19日(月)	● 小潮
10月20日(火)	● 小潮
10月21日(水)	● 小潮
10月22日(木)	● 長潮
10月23日(金)	● 若潮

日の出没・月の出没

地点	東京	大阪
天文薄明	4:17	4:33
航海薄明	4:46	5:03
市民薄明	5:16	5:32
日出	5:41	5:57
正中	11:27	11:43
日没	17:12	17:29
市民薄明	17:38	17:54

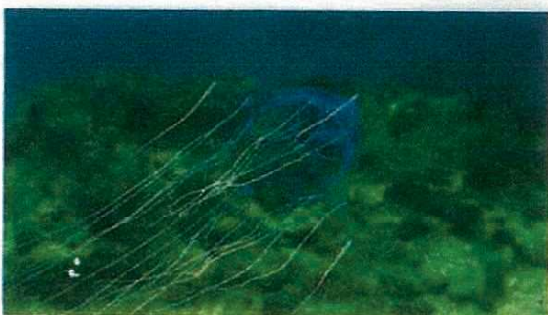
海の危険!

遙か昔からさまざまな恵みを与えてくれている海だが、自然はただ優しいだけではない。荒れ狂う海もあれば、人の命を脅かす生物も存在する。そこで磯遊びや釣りなどで遭遇しやすい、海の危険生物を紹介しよう。危険生物には、たかが十数cmに満たない大きさでも十分人の命を奪うことのできる毒を持っているものも少なくない。もし被害にあった時はそれぞれの応急処置を行い、早めに医療施設へ行くことが肝心だ。



アンボイナ

イモガイの仲間には毒矢をもつ種類がいくつかあり、中でも“ハブ貝”の異名をもつアンボイナが最強。夜行性で捕食に使う毒矢は、衣類の上からでも威力を発揮する。全身麻痺や呼吸困難をひきおこし、死亡例もある。応急処置は刺された部分を切開し毒を吸引する。



ハブクラゲ

毎年ビーチなどで被害が報告され、最近では危険生物としてずいぶん認知されている。触手にある刺胞に猛毒をもち、振動するものからみつく習性がある。応急処置は食酢による解毒、温シップ療法など。クラゲではカツオノエボシも神経毒を持ち、危険である。



ラッパウニ

岩場などで昼間動かないウニ類にも毒をもつ種類がある。このラッパウニは強烈な神経毒をもった棘で体を覆い、あやまって触ると血圧低下、言語障害、四肢麻痺、そして呼吸停止をも引き起こす。即、棘を抜き、患部を約40~50度のお湯につける。死亡するほどではないが、サンゴやイソギンチャクにも毒をもつものがあるので、むやみに触らない方がよい。



オニダルマオコゼ

浅いサンゴ礁域や岩礁域に生息し、その姿ゆえ岩と間違えて踏む可能性が高い。背鰭に猛毒の棘をもち、刺されると激痛が走る。感覚麻痺、嘔吐、呼吸困難の症状がでる。死亡例もあるので、素足で海岸を歩く時はとくに注意。応急処置は残存物を除去し、約40~50度のお湯に1時間ほどつける。



ヒョウモンダコ

だ液中に猛毒を含み、咬まれることによってシビレ、めまい、言語障害、全身麻痺におちいる。死亡例もある。タコは捕まえようとすると鋭い口で反撃し、毒がないものでも深い傷を負うので注意が必要だ。応急処置は毒を絞りだし、傷口の上部をきつく絞って毒の拡散を防ぐ。テナガダコも毒をもつ。

体験プログラム【フィードバックシート】

○フィードバックシートのご記入にあたって

ご記入いただく際に、参考として以下の内容を確認ください。

【モニター体験の前提条件】

体験プログラムのターゲット ⇒ 民泊を体験した子どもの家族の受入れ
（“家族の学校”をテーマとした3地域の連携）

【モニター体験会に対する3地域が期待すること】

- （1）“家族の学校”というテーマに基づく体験プログラムの付加価値化
- （2）大人にも魅力のある体験プログラム内容
- （3）地域連携による実施の際の留意点の抽出

※個別意見（期待する事項）

- ・家族の民泊体験の延長上に、3村への移住のきっかけが位置づけられるか
- ・どうすれば顧客の目線から、差別化でき魅力が発信できるプログラムとなるか
（「いいな3村」に来る理由を発信できるようにする必要がある）
- ・実施側のスキルアップの観点を確認したい
- ・3村連携した場合の、実施手順、実施に際した留意点、マネジメント手法

【アドバイスの視点】

- ・ご自身の立場やご経験から、以下のような視点でアドバイスをお願いします。

◆旅行業の従事者

⇒ 教育旅行・グリーンツーリズムの観点から商品としての魅力づくり、課題抽出 等

所属	
お名前	

体験プログラム【フィードバックシート】

- 本日体験するプログラムについて、①～③の3つの項目に分けて、ご自身の立場やご経験をもとに、お気づきの点をご記入ください。（※振り返り会終了後に、回収させていただきます）

■体験：

①プログラムの良い点

②改善が必要な点（プログラムの魅力化、差別化のポイント等）

③その他コメント

■モニター体験会全体を通じた感想・意見

体験ツアーの「魅力」造成研修会
資料

いいな3村 体験ツアーの造成研修

1. 目的

- いいな3村（伊平屋村、伊是名村、今帰仁村）の、連携型の体験プログラムやツアープログラムの案について、ターゲット層にその魅力がしっかり訴求できるよう、3村プログラム提供者を中心としたメンバーを対象として、プログラムの魅力化や発信方法についての研修会を実施する。
（→検討に当たっては、過年度立案したいいいな3村のコンセプト“家族の学校”の趣旨を踏まえた検討を行うことを基本とする。）

2. 実施概要

（1）日時

- 3月7日（月） 12:30～17:00 （18:30 から懇親会）

（2）場所

- 今帰仁村あいあいファーム（研修室）

（3）実施概要

- 魅力創出・情報発信の事例を踏まえた検討
- ツアー・プログラム作りの実践研修

（4）参加者

- 3村のプログラム運営担当者、関係者、行政関係者
（合計最大20名程度）

（5）講師・アドバイザー

講師・アドバイザー	役割分担
高砂 樹史（前・小値賀アイランドツーリズム）	基調講演・地域離島における商品造成・運営を再確認
大谷 晴信（近畿日本ツーリスト）	体験プログラム（旅行）のターゲット性の再確認
岩崎 雅美氏（TURNS 編集部）	ストーリー性に客観性をもたらすアイデア
小林 政文（一社 沖縄体験観光協会）	プログラムと旅程品質に関する助言など

3. 実施内容

(1) 魅力創出・情報発信の事例を踏まえた検討

(12:30~14:30 講義：60分、意見交換 60分)

○仮タイトル「地域資源の商品化ポイント！だから人は島に来る」

○高砂氏による小値賀における取り組み紹介と意見交換

→小値賀島の取り組みの紹介。

→島の魅力のある受入プログラムづくりや、訴求力の高め方、島の魅力についての情報発信のポイント。

→取組を支える組織作りについて。

※講師：前・小値賀町アイランドツーリズム協会 高砂樹史氏

(2) ツアー・プログラム作りの実践研修

(15:00~17:00 (120分))

○第1段階 商品設計会議（「私たちいいな3村の“家族の学校”ツアーをつくろう！」）

商品規模、対象者、販売方法、年次計画等（可能性含む）

○第2段階 商品造成会議

上記に沿って詳細プログラム内容を上げ、組み合わせ・いくつかの種目と商品パターンを構成。

その中から、先行的に販売できるものを選定し、そのほかのものも造成に向け準備する。

※円卓的な形式を採り会議形式を行う中で、全員が行程案を出し合い、全体議論しながら、個別の作業を進めていく。

※前後半とも、最初の30分で、各自のアイデアを出す、そしてそのあと30分でその複数意見をまとめて絞り込む。

※アドバイザーは、体験詳細を提案するのではなく、その地域性や顧客ニーズの視点での提案を行なう。

※体験コンテンツに関しては、各村で現在できる、もしくは考えていることを一覧にして作ってきてもらう。

4. その他

○ 会の終了後懇親会を実施。

(以 上)

平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業

いいな3村 体験ツアー造成研修会、第3回会議出席者名簿

(敬称略)

番号	村	班名	役職	氏名	3月7日		3月8日	備考
					研修会 (12:30~)	懇親会 (18:30~)	会議 (9:00~)	
1	伊是名村	伊是名村 農林水産課	主 事	名 嘉 尚	○	○	○	
2		伊是名村 商工観光課	課 長 補 佐	東 江 隆 路	○	○	—	
3		いぜな島 観光協会	事 務 局 長	上 間 美 卓	○	○	○	
4		〃		前 田 辰 也	○	○	○	
5		民家さん		名 嘉 裕 子	○	○	—	
6		民家さん		東 江 史 江	○	—	—	研修会 途中退席
7		民家さん		東 江 文 子	○	—	—	研修会 途中退席
8	伊平屋村	伊平屋村 農林水産課	主 事 補	前 里 薫	○	○	○	
9		〃		宮 城 慎 太 郎	○	○	○	
10		伊平屋村 総合推進室	観光コーディネーター	叶 雅 美	○	○	○	
11		伊平屋島 観光協会	事 務 局 長	金 城 洋 子	○	—	—	研修会 途中退席
12		〃		西 銘 琢 也	○	○	○	
13		民家さん		新 垣 英 子	○	○	—	
14		民家さん		安 里 里 江	○	—	—	
15	今帰仁村	今帰仁村 観光協会	事 務 局 長	又 吉 演	○	○	○	
16		〃		相 原 実 里	○	○	—	
17		民家さん		宮 地 一 民 (ご夫妻参加)	○	—	—	
18		民家さん		央 戸 秀 雄 (ご夫妻参加)	○	—	—	
19		民家さん		上 原 茂	○	—	—	
20		民家さん		本 藤 久 美 子	○	—	—	
21		民家さん		金 城 郁 代	○	—	—	
22	沖縄県	村づくり計画 課	農 村 活 性 化 推 進 班 長	大 嶺 保 和	○	○	○	
23		〃	主 任 技 師	崎 間 賀 子	○	○	○	
24		〃		金 城 雅 友	○	○	○	
25	事務局	OC		小 川 哲 平	○	○	○	
26		OC		大 城 美 由 紀	○	○	○	
27		A R J		中 村 圭 一 郎	○	○	○	
28		A R J		大 島 重 久	○	○	○	
29	講師	元 小 値 賀 観 光 ま ち つ くり 公 社 / お ち か アイランドツーリズム協会 専務取締役		高 砂 樹 史	○	○	—	
30		近畿日本ツーリスト		大 谷 晴 信	○	○	—	
31		TURNS編集部		岩 崎 雅 美	○	○	—	
32		一社 沖縄県体験観光協会		小 林 政 文	○	○	—	
参加人数					32	23	15	